

会議要録

会議の名称	平成26年度 第2回文化財保護委員会
日 時	平成27年2月18日（水） 14:00～15:00
場 所	和光市役所 4階 401会議室
出席者 ※敬称略	【文化財保護委員】10名の委員のうち9名が出席 田中 明、副島元子、矢崎康彦、後藤友子、小田部玲子、森 朋久、鈴木敏弘、 内田はま子、関口泰典 ※欠席：富岡進 【事務局】 教育長 大久保昭男、 教育部長 上篠乙夫、 生涯学習課次長兼生涯学習課長 富岡敏光、 生涯学習課副主幹兼文化財保護担当統括主査 鈴木一郎、 文化財保 護担当 岸 勝己・中岡貴裕
傍 聴 者	0名

1 開会

2 教育長あいさつ

第2回文化財保護委員会にご出席をいただきありがとうございます。本日は平成26年度文化財保護事業中間報告、午王山遺跡発掘調査出土の弥生時代遺物の文化財保護指定について準備をしておりますのでよろしくお願いいたします。

3 文化財保護委員会について

○事務局

市民参加条例第12条第4項の規定による会議公開及び要点記録による会議録の公開について説明。会議資料確認。

4 協議・報告

(1) 平成26年度事業中間報告

○事務局より資料説明

【平成26年度事業報告】

1 埋蔵文化財調査の確認調査（試掘）は平成27年1月末現在 27件。

2 本発掘調査 平成27年1月末現在3件。

(1) 越後山遺跡 7 次

調査期間：平成26年10月下旬～11月中旬実施。

主な遺構：縄文時代中期住居跡 3軒

(2) 花ノ木遺跡14次 調査期間：平成26年11月上旬～中旬実施。

主な遺構：溝跡 1条

溝が延びていて、天井部分を残し下を掘り抜いたような穴のような形になっているの遺構がどのような性格の遺構であるかは今後、報告書作成過程で考えていき

たい。鈴木敏弘委員が以前、午王山遺跡の第1次調査で、発掘をされた地下道に類似する遺構ではないかとも考えられる。長さは6～7mぐらいまで掘れたが、それ以上は調査対象外なので、完掘には至っていない。

(3) 峯前遺跡7次 調査期間：平成26年12月中旬実施。

主な遺構：方形周溝墓（溝）2条

遺構の上部が掘削されていた。本来あったとみられる溝跡の下の部分しか残っていなかった。遺物が若干確認されており方形周溝墓と認識している。

3 新倉ふるさと民家園の管理運営

和光市古民家愛好会と和光市協働指針、市民との協働における運用基準に基づき、管理運営を委託している。平成26年4月1日から平成27年1月31日現在、来園者数は、10,870人、平成18年の開園以来の来園者数は延べ126,346人。毎月一度古民家愛好会と和光市生涯学習課において連絡調整会議を開催して、管理運営について適宜連絡調整を行っている。

4 和光市デジタルミュージアム管理運営

平成26年4月1日～平成27年1月31日現在までの和光市デジタルミュージアムの閲覧件数は17,477人のアクセス数を確認。開設からの累計は、49,987アクセスを確認している。和光市デジタルミュージアム紀要の刊行の準備をしている。平成27年3月にデジタルミュージアム上にて、公開する予定である。外部からの寄稿、和光市教育委員会職員による執筆、富岡進委員の講演の講演録を掲載する予定で準備を進めているので、3月には発刊する予定。

5 文化財体験講座「古民家と地域の伝統体験講座」（全3回実施）

古民家とその周辺をめぐり、地域の伝統文化を体験し、伝統文化の大切さと必要性を学んだ。

第1回目 平成26年10月22日（水） 地域の歴史概要と古民家の成り立ち

講師：和光市教育委員会職員

講師：富岡 進（和光市文化財保護委員）

第2回目 平成26年10月29日（水） 古民家周辺地域の歴史と文化を廻る。

講師：副島元子（和光市文化財保護委員）

第3回目 平成26年11月12日（水） 地域伝統食を体験する（手打ちうどん）

講師：古民家愛好会

以上、合計3回で、延べ33人参加。

(2) 午王山遺跡発掘調査出土の弥生時代遺物の文化財指定について

昭和54年3月の第1次調査以来、15回の調査が行われている。このたび発行した第10次発掘調査報告書で既調査の全ての報告書を発行したことになる。市の所有地の史跡指定を受けたことにより、今後は遺跡の保護保存にシフトしていくことになると考えている。

そのため、出土遺物の報告は今回の報告書で区切りとなる。貴重な考古資料となるので、今後は保存、公開を含め検討していく。報告書掲載の出土遺物は全部で、1, 372点。事務局側で各時代を示した印をつけた遺物の候補資料が292点となる。
⇒大久保教育長より諮問内容を読みあげ、田中文化財保護委員長へ諮問。

○田中委員長

諮問を申し受けたので、午王山遺跡の答申をまとめていきたい。各委員のご意見を願いたい。

○鈴木委員より補足説明

専門的な意味と学術的な意味で重要なものがある。例えば午王山では銅鐸形土製品が3点出土している。環濠の中から出土していることがわかり、学術調査的な性格の調査がきちんとしているので、文化財指定するのにあたり貴重な資料と言える。集落規模としては、午王山遺跡は埼玉県内で確認されている環濠集落としては一番大きいのではないかと思う。遺物としては、東海系土器、静岡県や弥生時代の外来系土器や畿内系土器、北関東系の土器が確認できる。これは、南北の交易を示す環濠集落の重要な事例である。土器は時代とか年代とか地域性など、時間と空間を知る最大の武器である。生活を知る上で、機能面を含めて総合的にいろんな角度から研究していくと様々なことがわかる。1700点にのぼると何が貴重で何が重要になるのかを判断することが必要となる。市民から見て重要なものとインパクトがあるものが望ましい。ありふれたものや破片だと余り見栄えがしない。土器の場合壊れやすいので、形のあるものを指定し今後保管管理していくことも大変なので、どのようなものを指定するのか検討を要する。今回の会議にあたり、資料を作成したのでご覧いただきたい。〔スライド映写、解説約15分（省略）〕

指定にも市レベル、県レベル、国レベルとある。近隣周辺市の指定状況も見比べて検討する必要がある。発掘調査がまだあまり行われていなかった頃は、（和光市指定文化財の）弥生式つぼは保存状態から見ても希少だったかもしれないが、現在は以前に比べ何百倍も資料が増えたので、指定文化財とするにあたり他のバランスも考慮する必要がある。

○田中委員長

文化財の指定について保護委員会として調査を進めていかなければならない。考古学が専門の鈴木委員には引き続き調査を進めていただき、この文化財保護委員会で中間の報告をお願いしたい。市の事務局の方でも支援をお願いしたい。

○副島副委員長

生活の中で使われる土器がほとんどだが祭祀に関するものはどうなのか。また、生活の中の紡錘車とかを付け加えていただければよろしいかなと思う。

○鈴木委員

祭祀に関しては銅鐸とか勾玉だとかが儀式に関わるものである。お祭りをするときに使

った土器、穴が開いているとか、片口であるとか、通常の日常生活で使うけれども、儀式だけのために作った土器ではないかというものもある。どちらかと言うと弥生時代後期よりは古墳時代に入ってしまうが、祭祀に関しては私は専門にやっているので考慮したい。祭祀遺物は午王山ではやはり銅鐸形土製品が大体中心である。木製品とかは大体腐ってしまうので残らない。例外として炭化材として残る場合などがある。炭化して出てくるというのは一部ある。午王山の場合はないと思うが、事務局で他に把握しているか。

○事務局

紡錘車は市域では古墳時代は良く出てくるが、午王山の弥生時代遺物としての出土は現在までのところ無い。

○鈴木委員

紡錘車は糸を紡ぐものだが、弥生時代後期でも茨城県の北部では良く出てくる場所もある。特産物として繊維製品を作っているところなどである。金属貨幣が普及する以前はお米とか穀物類がお金の対象。その次が布である。紡錘車は重要だが、弥生時代は少ない。板橋では見つかったかもしれない。交易品なので、作っているところと作っていないところがあるのかもしれない。

(3) その他

○田中委員長

その他に何か意見等はあるか。

○事務局

次回の文化財保護委員会の開催予定について説明。

閉会

○副島副委員長あいさつ

最近の話題として和光市商工会の方が中心となって、わこう郷土かるたが作成され大会が催された。読み句、絵札の中に歴史に関する事でかるたに残したいものがいくつか含まれていたことは大変有意義なことだったと思う。小さい子供たちがやってくれていることが良いことだと感じた。また、文化財保護委員としてはそういう機会を作っていきたいと思った。

生涯学習課が民家園の外に馬頭観音を移設したのは、民家園に似合っていてよかったと思った。板橋区の文化財の本の中に登録文化財制度がある。今実際生活して使っているものを登録する制度とのことで、登録しておく文化財が壊されなくて済むので、今後の課題として、和光市でもどのような物が対象になるのか検討していただけると良いのではないかと思います。